

学びは常に玉川の丘に用意されています。  
通信教育部で学んだ先輩を中心に、現在の仕事や地域での活躍をインタビューします。

# 生涯学べ第17回 大学図書館が果たす役割



飯島恵子 専修大学図書館司書

2010年通信教育部で学芸員資格取得

2005

筑波大学大学院の図書館情報メディア研究科を修了。研究テーマ「専修大学図書館に関する学生の意識調査」をもとに修士論文をまとめた



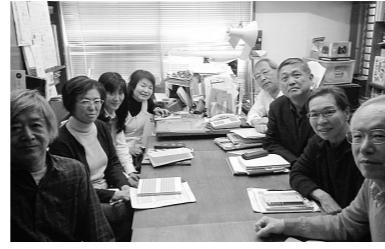
2008

丸善丸の内本店ギャラリーで大学図書館所蔵の貴重書展を開催。フランス革命期の資料「ペルンシュタイン文庫」「蜂須賀家旧蔵本」などを展示



2012

通大で学芸員資格取得後、玉川大学キュレーターズに入会。浮世絵愛好会に参加し、稲垣進一先生を中心とする学習会や浮世絵観賞会などで学びを深めている



専修大学生田キャンパスにある本館図書館には図書約110万冊をはじめ、視聴覚資料、雑誌、貴重書コレクションなどが揃う。2003年から地域住民に公開され、学内外の利用者が増えている

小学生の頃、毎週日曜日は父と散歩を楽しむ日でした。帰り道に小さな本屋さんで一冊、本を買ってもらったのがとても楽しみです。今考えてみればこの頃から読書への興味が育まれたように思います。工場の時間、自分になりたい職業の名刺を作るとき、先生に「図書館にいる人は何というの?」と聞き、「司書、いいじゃないか」と書きました。

そんな思いを出を手練り寄せたのは、すでに専修大学図書館の司書

資料と利用者を結びつけることが司書の役目  
学生や教員に的確で質の高い情報を提供したい

として働き始めてからずいぶん経ってからです。司書になってからは自分も学び続ける日々で、大学図書館ではより専門的な知識を求められます。教員が資料を探しに来られたら、そのお手伝いをする。資料の調べ方を学生に指導してほしいと頼まれると、張り切って準備しました。

一九九八年には新図書館がオープンし、現在、大学図書館の蔵書数は全体で約一七〇万冊、雑誌は約二万二、〇〇〇誌です。資料と

利用者を結びつけるレファレンスサービスを充実させ、学生や教員の研究支援に力を入れました。

一方で気にかかったのは、学生の「図書館離れ」です。理由を調査することが図書館の今後にもつながると考え、二〇〇三年に筑波大学大学院図書館情報メディア研究科へ入学。学生に図書館に対する意識調査を実施したところ、図書館利用は教員による指導の影響が大きいと分かりました。そこで、学生向けに図書館ツアーを実施し、利用方法の普及啓発に努めました。大学図書館は地域住民に公開されることで、生涯学習の場としての役目も担うようになります。テ

ーマに基づいて貴重書などを紹介する企画展示も増えましたが、司書には展示に関する基礎知識がないので、学芸員の勉強をするために二〇〇八年、玉川大学の通信教育部へ入学しました。

学芸員の知識の修得もさることながら、実際に自分も学生たちと同じように与えられた課題についてレポートをまとめる立場になると、その難しさを痛感しました。最初はどのようにまとめて良いかわからず、試行錯誤でなかなか書けませんでしたが。

しかし、あるとき、先生がレポートの良い点を指摘してくださいとかがきつかけでどんどん書けるようになりました。もちろん、図書館の資料探しはプロですから大いに活用し、良いレポートが書けたのも大学図書館の資料があったからこそだと思います。

玉川大学の先生方は、細やかにコメントを書いてくださるので、それがとても励みでした。この体験は図書館でのレファレンスにも役立ち、レポートの相談に来る学生に親身に指導ができるようになりました。

また、学芸員の勉強をしたことで展示の仕方など多くの知識を得ることができ、常に新しい試みをしてみようという意欲にもつながりました。今年度は中世の西洋写本をテーマにした企画展で「音声ガイド」を制作したところ、「分かりやすく、資料の理解の助けになった」と、とても好評でした。図書館の展示は、資料と利用者をつなげる一つの方法でもあるのです。

学芸員の資格取得後は、OBによる「玉川大学キュレーターズ」に入会しました。そこでは先生を

中心に素晴らしい仲間と共に学習会や観賞会を通じて学ぶことの楽しさを味わっています。

学芸の世界は大きな木の枝葉のようにつながっています。これからも日々研鑽を積み、学生や教員により良い資料を提供していきたい。「おかげで良い論文が書けた」と喜ばれたときは、司書冥利に尽きます。学生たちも自分自身で満足できる論文を書くことができました。きっと大学で学んだ喜びを味わうでしょう。それが社会で自立していく自信にもつながると思います。

## 大学図書館の展示活動

大学図書館が学内外での展示会を開催する目的は、主に、①貴重書の紹介 ②テーマに関する蔵書紹介 ③利用者への教育・指導 ④娯楽の4つに分かれる。従来、大学図書館の特別書庫にあって公開されない貴重書を紹介する企画展示が主流だったが、近年はテーマに基づいて資料展示をし、利用者に身近な興味や関心を喚起させるものが増えている。

図書館を公開している大学では学外の来館者が増加傾向にあり、展示活動も、学内の学生や教員を対象を限定せず、地域貢献や住民の生涯学習の役割を担う。知識の啓蒙や大学の広報活動など、さらに開かれた図書館の在り方が問われている。



専修大学図書館が開催した中世の西洋写本の展示会。展示品を解説する「音声ガイド」をオリジナルで制作し、資料にまつわるエピソードや背景、著者の心情、バロック音楽のBGMを取り入れた。